

一般社団法人

日本カート協会 設立発表記者会見

Establishment announcement press conference



社員代表

（現JAFカート部会 部会長）

谷本 勲

Tanimoto Isao



トップ



モータースポーツ業界における カートの位置づけ・役割



ジュニア

トップドライバー

各種モータースポーツ
カテゴリ

フォーミュラ、ツーリングカー
ラリー、ドリフトなど

カート

若手にとっての四輪自動車競技への登竜門
子供から大人まで長く競い合えるスポーツ
(年齢を重ねても楽しめるスポーツ)
モータースポーツの魅力を手軽に体験できる

カート競技市場(競技人口)の現状

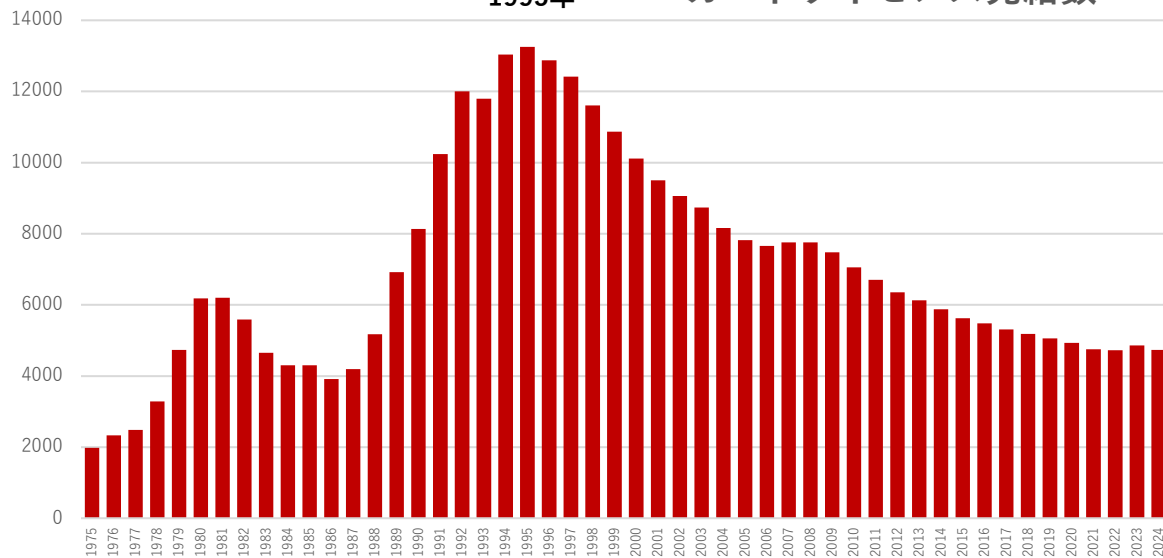
全体のライセンス数が大幅に減少。ジュニアライセンス数も減少している

カート競技人口が減少した主な要因

- 参戦コストの高騰
- 接触機会の減少
- 情報アクセスの難しさ
- 他の競技との選択競争
- 社会的認知度の課題

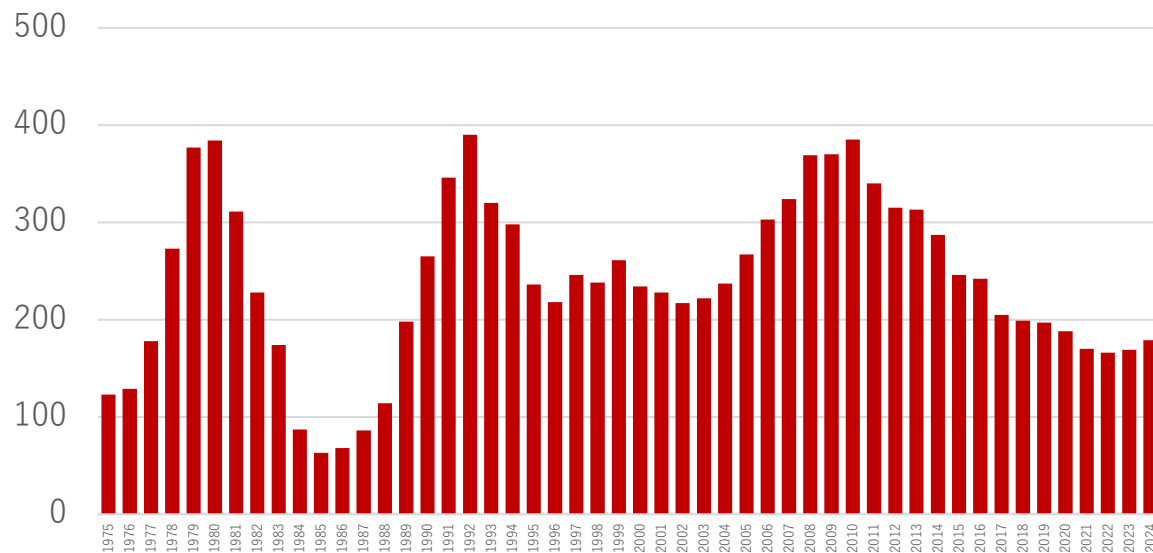


1995年 カートライセンス発給数



JAFモータースポーツ統計(カート)より

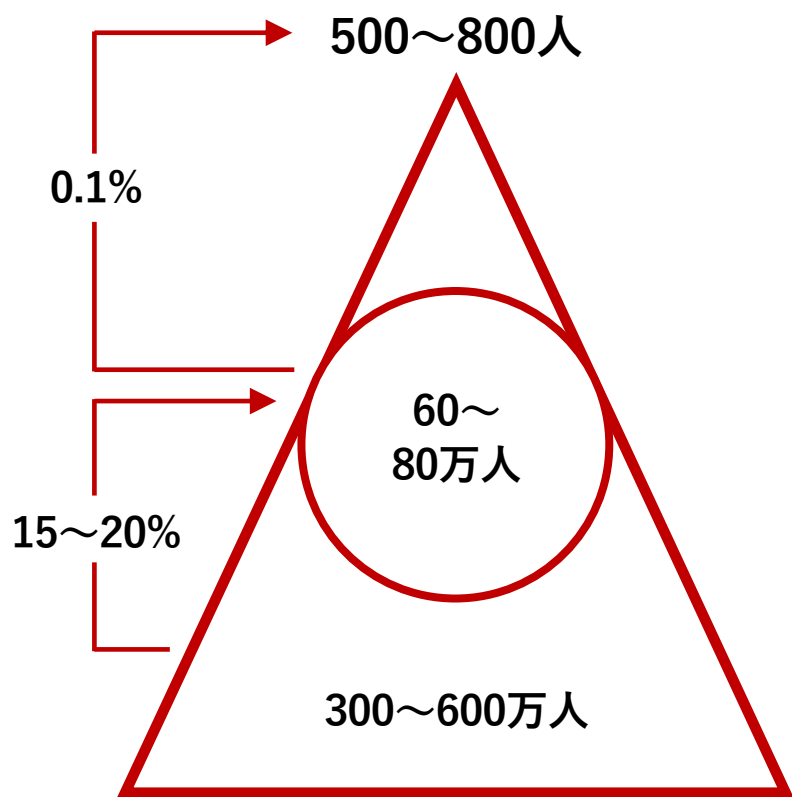
ジュニア合計



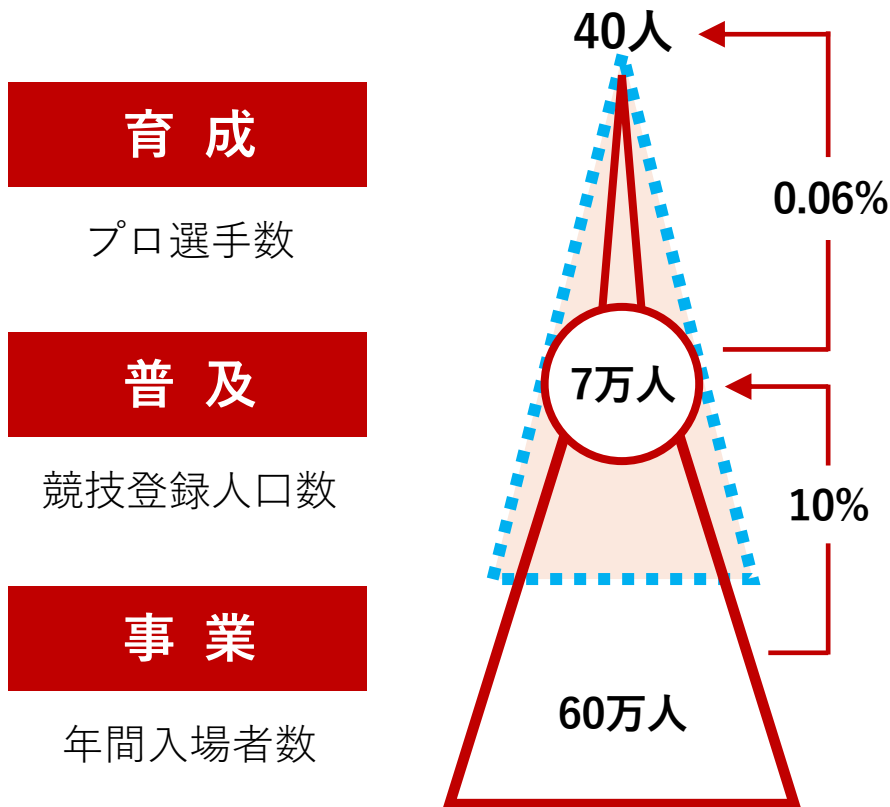
JAFモータースポーツ統計(カート)より

モータースポーツの歪んだ競技ピラミッド

～普及と育成が機能していない～



サッカー・バスケットボール
“綺麗な三角形”



モータースポーツ
“歪な三角形”



モータースポーツ文化を未来へ継承するために



日本カート協会の担うべき役割

1. 公共性をもつ非営利型法人としての運営

- ・短期的利益を追求せず、育成と普及活動に注力する
- ・安定的・持続可能な運営により、長期的な人材育成と競技普及を実現する

2. 「オール・カート業界」による連携基盤の構築

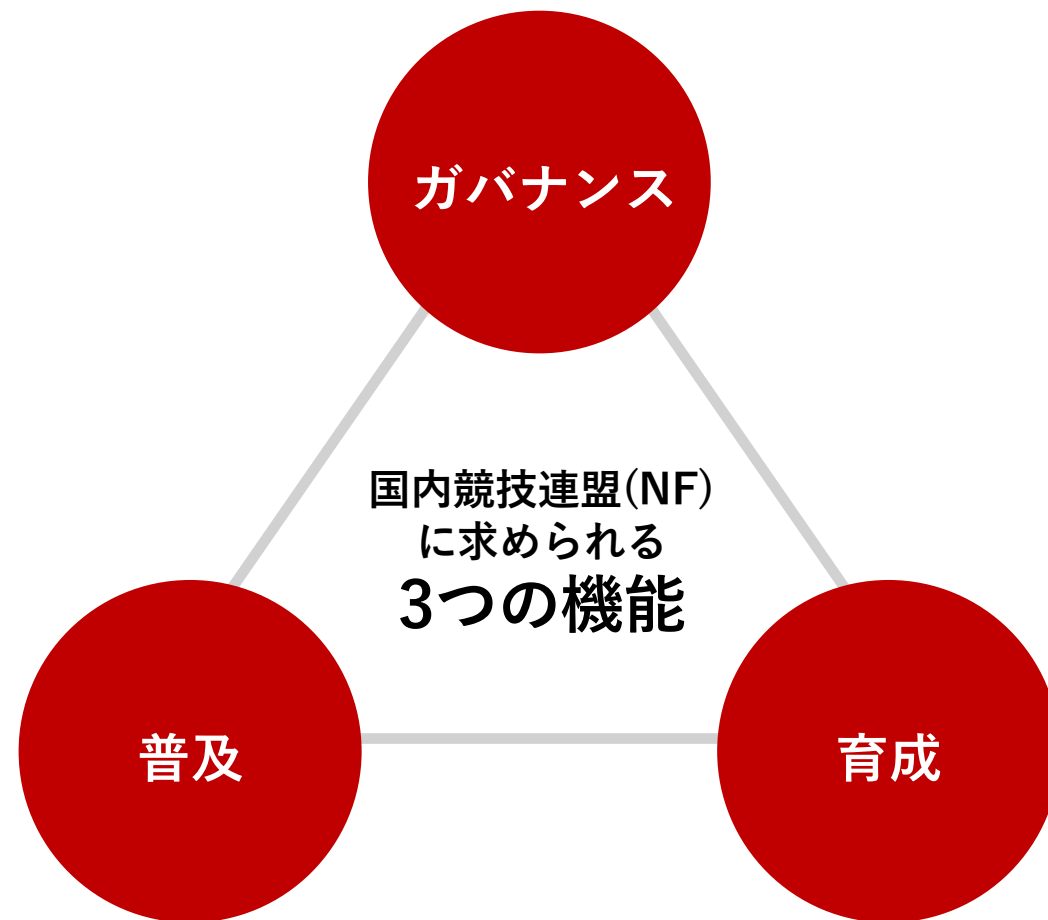
- ・カート業界全体を結びつける連携プラットフォームを提供する
- ・共通の課題解決や新たな価値創造を可能にする仕組みをつくる

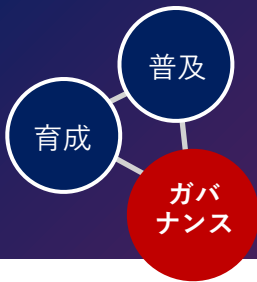
3. 「オール・モータースポーツ」による人材育成支援

- ・上位カテゴリーとの連携を通じて、育成選手の明確な成長ルートを整備する
- ・カートをモータースポーツ全体の入口として位置づけ、競技全体の未来を担う人材を輩出する

4. 公的機関との連携によるスポーツとしての社会的認知獲得

- ・スポーツ庁や自治体との連携を通じて、カートを公式なスポーツとして位置づける
- ・社会的認知を得ることで、モータースポーツの普及を促進し、市民権の獲得を目指す





～ ALL カート業界からALL モータースポーツ業界へ ～



全国カートコース運営団体
日本カートランド協会 (JKLA)

日本全国のカート場が中心となり、レジャーやスポーツとしてのカートの普及、振興を図るための団体



全国SLカート運営団体
SLカートスポーツ機構 (SLO)

日本一の競技者数と競技会開催数を誇る日本最大のカートクラブ



全日本カート選手権運営団体
GPRシリーズ (GPR)

全日本カート選手権OK部門を中心にレーシングカートを使った国内カートレースの最高峰シリーズを所轄

社員参画

一般企業/基金

JAFモータースポーツ未来委員会

- ・日産自動車(NISMO)
- ・本田技研工業(HRC)
- ・トヨタ自動車(TGR)
- ・ブリヂストン
- ・横浜ゴム
- ・住友ゴム工業

青少年育成基金

協賛・各種支援

一般社団法人日本カート協会 (Japan Karting Association)

国内モータースポーツ業界の育成システム
(選手、審判員、指導者)の構築・運用
ならびにモータースポーツ競技の普及・振興

- | | |
|---------|---------------------------------------|
| 代表理事 | 山本 尚貴 (レーシングドライバー) |
| 理事 | 谷本 勲 (TOMSカートクラブ代表
兼 JAFカート部会 部会長) |
| 理事 | 夏苅 隆裕 (SLカートスポーツ機構代表理事) |
| 理事 | 松浦 佑亮 (GPR代表) |
| 理事 | 茂田 和也 (日本カートランド協会会長) |
| 理事兼事務局長 | (入選中) |
| 監事 | 須永 功 (税理士、日本フットボールリーグ監事) |

国内モータースポーツトップカテゴリー所轄団体

- ・SUPER GTシリーズ (GTA)
- ・Super Formulaシリーズ (JRP)
- ・スーパー耐久シリーズ (STMO)

協賛・各種事業連携

代表理事

山本 尚貴

(レーシングドライバー)

Yamamoto Naoki





私自身が6歳でカートを始め、
多くの方々の支えで今に至っています。
今回この協会を立ち上げたのは、
カートから世界を目指せる仕組みを、
もっと多くの人に届けたいという思いからです。
カートを通じて、モータースポーツの
未来を“もっと近く”に。
今日はそのビジョンと具体的な取り組みに
についてお話しさせていただきます。

ミッション 協会が果たすべき使命

MISSION

カート競技を通じて、夢と挑戦を支え、次世代のトップドライバーとモータースポーツ人材を育成し、健全なモータースポーツ文化を普及・振興することで、業界と社会の発展に貢献する。

ビジョン 協会が目指す未来の姿

VISION

「カートから世界へ。」すべての人に、未来を駆ける可能性を提供し、モータースポーツ業界の持続的成長と社会的価値の創出を実現する。

バリュー 協会が重視する価値基準

VALUE

発掘：全国から才能ある若手を見出し、その挑戦を後押しする

育成：競技力だけでなく、社会性や表現力を備えたスポーツ選手を育てる

挑戦：日本代表体制を構築し、世界への挑戦を支える

普及：カートをもっと身近に、誰もが楽しめるスポーツにする

信頼：公正で透明な運営を通じて、社会的信頼を確立する。

連携：業界内外のパートナーと協力し、モータースポーツ全体の発展に寄与する。



活動取り組み 01

【発掘と支援】

01

全国の有望選手を多様な方法で発掘し、その挑戦と成長を支援します

年1回以上の
全国有望選手
発掘合宿の開催

レース現場での
スカウティング
活動の強化

各地域での
育成ミニ合宿の
段階的導入

才能ある選手に対しては、日本カート協会（JKA）が活動支援を行います。
一度の機会に限らず、何度でも挑戦できる仕組みを用意しています。

2025年度 有望選手発掘夏合宿 実施要項

主催者

一般社団法人 日本カート協会（JKA）

運営

GPR

日程

2025年8月18日～20日

開催場所

オートパラダイス御殿場

エントリー 期間

6月26日(木)～7月21日(月)
※Webからフォーム入力後、銀行振込

カテゴリー

カデットオープン(SLO車両規則に準ずる)
※エンジンデリバリー制

参加資格

- ・当該年8歳～12歳(2013年1月1日生～2017年12月31日生)
- ・カートレース経験者
- ・JAFカートライセンスもしくはSLメンバーズ所持者
- ・保護者からの承諾書が提出できる方
- ・直近の通学先「通知表(写し)」が提出できる方

参加費用

¥55,000(税込)
※デリバリーエンジン・ドライタイヤ1set含む

最大参加者数

30名
※応募多数の場合は事務局にて選考（7月28日発表予定）

支援選考 選手数

最大5名
※選考委員による判断で1～5名を選考

選考基準

選考は総合的かつ公平に実施し、選考委員は主に「将来的な成長可能性」「メンタル面での安定性」「指導に対する姿勢」「コミュニケーション・協調性」「基礎的な学習習慣や生活態度（参考）」といった観点に注目します。
なお、選考結果の理由に関する個別の問い合わせには対応いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

支援内容

- ・2026年 JAFジュニアカート選手権への参戦奨学金※支援金最大500万円
（詳細は対象選手から活動計画を提出頂き、協議の上決定とする。）
- ・その他選手育成プログラム（検討中）

※詳細は、日本カート協会HPをご確認下さい。



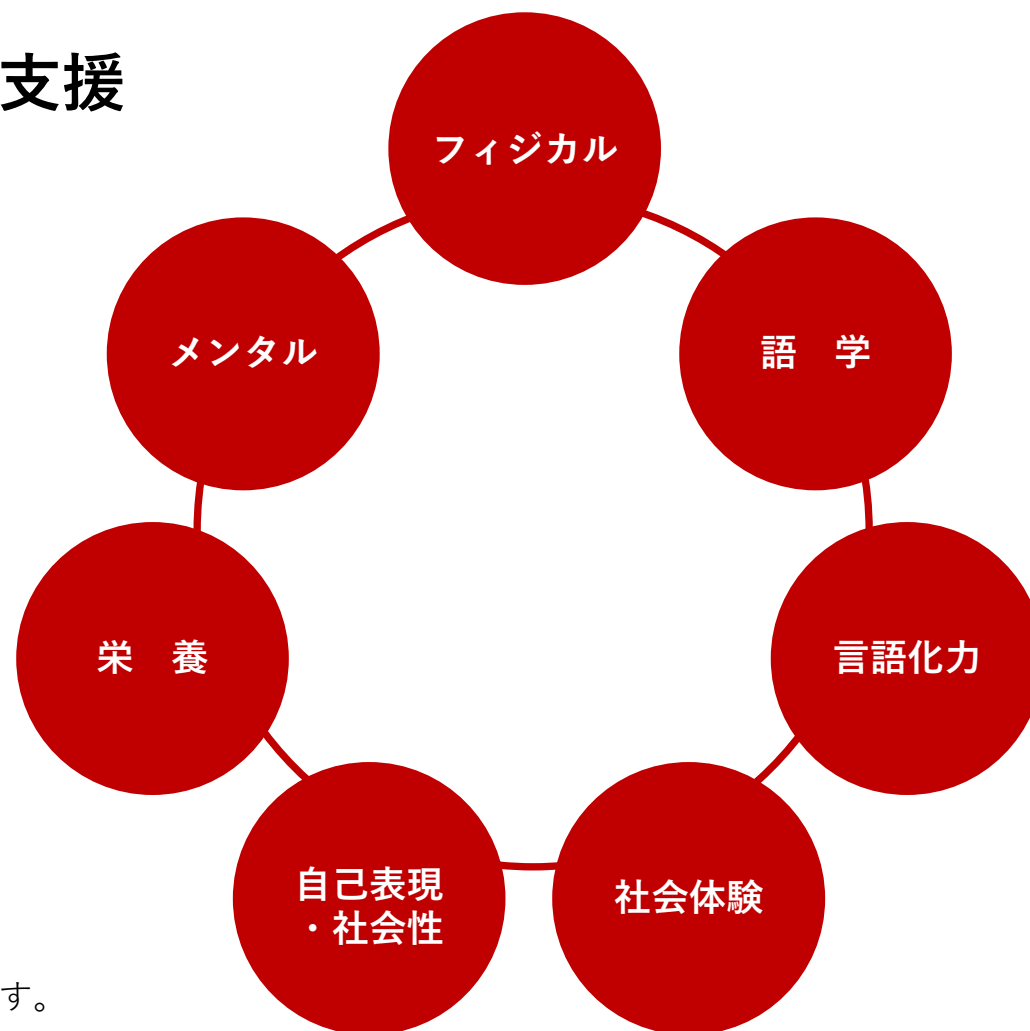
競技力と社会的適応力を育む、包括的な育成支援

日本カート協会では、選手一人ひとりが競技者として成長するだけでなく、将来、社会においても主体的に活躍できる人材となることを目指し、多面的な育成支援体制を整えています。

この支援は、個別のパーソナルアセスメントを基に、以下の領域において専門スタッフが継続的にサポートします

- フィジカル** : 競技パフォーマンスを最大化するための身体づくりとコンディション管理
- メンタル** : 自己理解・判断力・安定した心理状態の育成
- 語学** : 将来の国際活動を見据えた基礎的言語スキルの習得
- 栄養** : 年齢や競技状況に応じた健康管理と食習慣の指導
- 言語化力** : 自身の考えや意図を言葉で適切に伝える力の育成
- 自己表現・社会性** : コミュニケーション力・協調性・リーダーシップなど、他者と関わる力の涵養
- 社会体験** : 競技活動以外の機会を通じた社会理解と視野の拡大

これらを通じて、選手の競技力向上と同時に、社会的適応力・主体性・表現力の育成を図ります。
カートで培った経験が、競技の場を超えて、将来にわたる力となることを目指します。





世界に挑戦する「オールジャパン」体制の構築を視野に

日本カート協会では今後、発掘合宿やスカウティングを通じて見出された有望選手の中から、特に優れた選手を選抜し、日本代表的なチームとして国際大会への挑戦を支援する構想を検討しています。

この「日本代表構想」は、ドライバーだけでなく、エンジニアやメカニックなどのチームスタッフも含めた育成体制の構築を視野に入れた取り組みです。

将来的には、

選抜選手・スタッフによる“JKA日本代表”の編成

国際大会への派遣支援

世界に通用する競技力とチーム運営力の育成

といった展開を目指します。



カートをより身近に、誰もが楽しめるスポーツへ

日本カート協会では、地域に根ざした普及活動を通じて、
カートをより多くの人にとって「親しみやすく、始めやすいスポーツ」にしていきたいことを目指しています。

その実現に向けて、全国のカート場やカートショップをはじめとする多くの関係者と連携し、以下のような取り組みを展開していきます

地域連携による 参加機会の創出

- 地域に関係なく、誰もがカートに
触れられる環境を整備
- 全国のカート場・教育機関と
連携した体験会の実施
 - 地域イベントとの協働による
参加機会の拡大

初心者向け継続 プログラムの整備

- 継続しやすく、
成長が実感できる仕組みを提供
- ミニスクールを全国展開
 - 技術・安全・ルールを
段階的に学べる内容に

情報発信の強化

- 正しい情報を、必要な人に、
わかりやすく届ける
- ポータルサイト・SNSでの情報
集約と発信・初心者・保護者向けの
ガイドや動画の制作・公開

これらの活動を通じて、「親子で楽しむ」「仲間と遊ぶ」ことをきっかけに、カートの魅力に自然と触れてもらう機会を全国に広げてまいります。

【将来構想】

FUTURE



1. キャリアステップ支援の強化

カートからトップカテゴリー(FIA-F4以降)へと続く
明確なキャリアパスの整備を目指します。

選手一人ひとりの成長段階に合わせ、多様な支援を提供し、
持続的な挑戦と成長を後押しします。

2. 地域連携による育成ネットワークの構築

地域の企業・教育機関・自治体などと連携し、
全国規模で育成環境の整備とネットワークづくりを推進します。
すべての子どもたちが平等に育成機会を得られる社会づくりを目指します。

3. 日本独自の育成モデルの策定と普及

技術・フィジカル・メンタル・表現力を包括的に育む
独自の育成メソッドを確立し、全国に広げていきます。
世界に通用するスポーツ選手を育成するための強固な基盤づくりを進めます。

「普及」と「育成」



JAPAN KARTING
ASSOCIATION

一般社団法人

日本カート協会 設立発表記者会見

Establishment announcement press conference





一般社団法人

日本カート協会 設立発表記者会見

Establishment announcement press conference

